Title
Choroidal thickness outside the laser irradiation area after photodynamic therapy in polypoidal choroidal vasculopathy

Author(s)
菅野 幸紀

Publication Date
2015-03-24

URL
http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/632

Rights

DOI

Text Version
none
論文内容要旨

氏名
すがの ゆきのり
菅野 幸紀

学位論文題名
Choroidal thickness outside the laser irradiation area after photodynamic therapy in polyposial choroidal vasculopathy
（和訳）ポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学療法後のレーザー照射範囲外脈絡膜厚

ポリープ状脈絡膜血管症（PCV）は、日本人に多くみられる滲出型加齢黄斑変性の特殊型であり、黄斑部の脈絡膜新生血管からの滲出、新生血管の破綻に伴う出血によって視力低下、変色をきたす。光線力学療法（PDT）は光感受性物質を用いたレーザー治療であり、滲出型加齢黄斑変性において脈絡膜新生血管閉塞、退縮を得ることができます治療法である。光干渉断層計（OCT）は近赤外光を用いて眼底の断層像を得ることができる検査機器である。我々はOCTを用いてPDT治療前の脈絡膜の形態を観察することで、PCVや中心性脈絡膜血管性病変に対する治療後に中心窩下脈絡膜厚が20％程度減少することを報告した。今回我々はPDTのレーザー照射範囲外の脈絡膜厚変化に着目した。

37例のPCV患者（男性27例、女性10例、平均72歳）に対してPDTを行い、術後3か月間の視力、中心窩周辺厚、中心窩下およびPDT照射範囲から1mm外側の脈絡膜厚変化を観察した。PDT施行3か月後、視力は治療前平均0.39から0.58に有意に改善し（P<0.001）、中心窩周辺厚は治療前392±170μmから230±110μmに減少した（P<0.001）。中心窩下脈絡膜厚は256±115μmから3か月後に207±111μmと有意に減少した（P<0.001）。レーザー照射を受けていない照射範囲外側1mmの脈絡膜厚は240±92μmから209±86μmへ有意に減少していた（P<0.001）。

PCV患者では、脈絡膜血管透過性亢進がしばしば見られ脈絡膜厚は健常人に比べて厚い。PDT治療は、脈絡膜新生血管閉塞という直接作用だけでなく、正常組織である脈絡膜細胞血管、血管中大血管にも影響を与えると推定されている。これまでの研究で我々が報告したPDT後の中心窩下脈絡膜厚の減少は、脈絡膜血管透過性亢進の抑制による組織間流の減少や、毛細血管閉塞、血管のリモデリングによる血液減少を捉えていると考えられる。本研究でPDT後にレーザー照射範囲外の脈絡膜厚が減少したことも、PCVに対するPDTはレーザー照射範囲だけではなくより広範囲の脈絡膜組織に影響を及ぼしていることが明らかになった。検眼鏡による眼底検査で詳細な脈絡膜所見を得ることは不可能であり、従来インドシアニリンググを用いた蛻光眼底造影検査で脈絡膜血管流動態を捉えることができなかったが、OCTはより低侵襲で短時間に脈絡膜形態を観察することが可能であり、新たな脈絡膜評価法として有用と考えられた。

※日本語で記載すること。1200字以内にまとめること。